

## <プレスリリース>

報道関係各位

2015年11月10日  
一般社団法人キッズコーチ協会

# 学童保育の利用に関する母親向けの実態調査

## 「指導内容の充実」「学校の補習ができる」が最優先改善項目に

学童保育指導員の資格事業等を通じて、子育てがしやすい環境の整備や保育人材の育成、学童保育業界全体の発展を目指す一般社団法人キッズコーチ協会(東京都世田谷区、代表理事:島根太郎/以下、当協会)は、昨年度と同様に、学童保育の利用実態や、保護者が学童保育に求めるサービスを明らかにすることを目的に、首都圏、中京圏、近畿圏に在住し、現在、小学生の子どもを学童保育に通わせている女性(母親)を対象に、学童保育に関する保護者目線の実態調査を行いました。この調査は、学童保育を利用する母親の意識を定量かつ経年で把握するために、2013年度から実施している。

### 【調査結果のポイント】

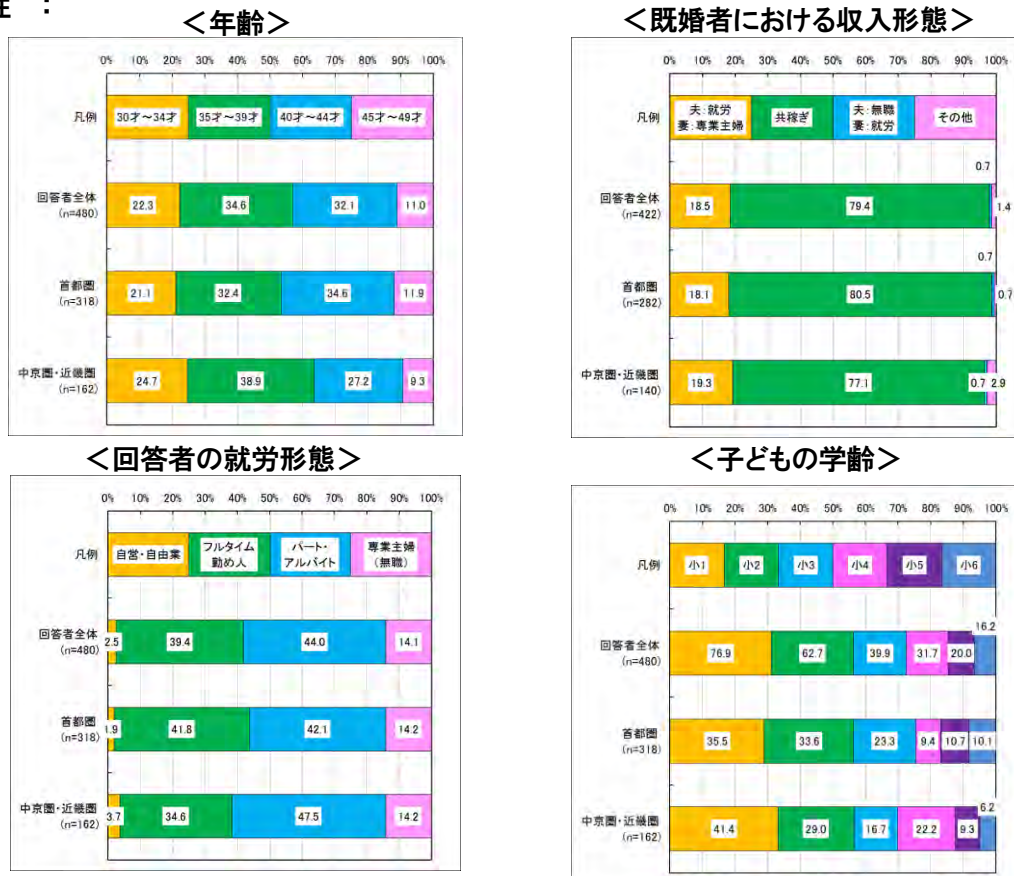
- **学童保育の利用実態** (P.3~)
  - 利用している学童保育の運営主体は公設が67.3%
  - 学童保育を利用している母親の55.5%が「週に5回(日)以上」利用
  - 学童保育を利用する理由は「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」が71.9%
  - 2014年度と比較して、学童保育を利用する理由として増加した項目は、「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」(7.4%増)、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」(5.0%増)
- **学童保育に対する期待** (P.5~)
  - 学童保育で過ごす時間を通じて一番身につけて欲しい能力は、「集団生活、集団行動への順応力」が57.9%
  - 2014年度と比較して増加した項目は、「新たなことにチャレンジする」(5.2%増)
  - 学童保育利用者の60%が小学校高学年(4~6年生)までの利用を希望
  - 学童保育を利用に際して期待したことは、2014年に引き続き、「学校や自宅から近い」(84.2%)、「行き帰りが安全」(81.8%)が最上位に挙げられています。
- **学童保育に対する評価** (P.7~)
  - 現状の学童保育で満足度が高いのは、「学校や自宅から近い」(79.1%)、「行き帰りが安全」(72.5%)
  - 満足度が低かったのは「学校の勉強の補習ができる」(20.8%)「勉強に集中して取り組める」(20.0%)
- **今後の学童保育に向けて** (P.8~)
  - 学童保育に対する期待度と満足度からみる課題を抽出すると「指導内容が充実」、「利用時間を延長できる」「勉強に集中して取り組める」「子どもの意見を取り入れる」「学校の勉強の補習ができる」が『最優先改善項目』となっています。
  - 指導員の満足度は「子どもが信頼できる人柄」(66.0%)、「子どもと同じ目線に立つ」(62.3%)

#### ≪報道関係の方のお問い合わせ先≫

一般社団法人キッズコーチ協会(株式会社キッズベースキャンプ内)  
広報担当:三沢 敦子  
TEL: 03-5797-3566 / FAX: 03-3700-5567 / E-mail: pr@kidsbasecamp.com

## 【調査概要】

- 調査方法：インターネット調査(回答者の抽出や調査の実施は㈱マクロミルに委託)  
 調査地域：首都圏(東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県/東京駅を中心とする半径40km圏)、  
 中京圏・近畿圏(名古屋駅を中心とする半径15km圏・大阪駅を中心とする半径30km圏)  
 調査対象：30歳～49歳で、現在学童保育を利用している母親  
 サンプル数：合計480サンプル(首都圏318サンプル、中京・近畿圏162サンプル)  
 調査時期：2015年7月  
 回答者属性：



備考：各調査項目については「地域別」、「家計形態別」、「母親の就労形態別」、「学童保育の設立主体別」、「利用料金別」に集計を行っておりますが、本リリースではその中から特に前年度と違いがみられたものを抜粋して記載しています。さらに詳細な調査結果をご希望の場合は、当協会までお問い合わせください。

## 【調査の実施背景】

子ども・子育て関連3法の中の児童福祉法の改正により、放課後児童クラブの質を確保する観点から、放課後児童クラブの設備及び運営について、省令で定める基準を踏まえて、2015年度より、市区町村が条例で基準を定めています。

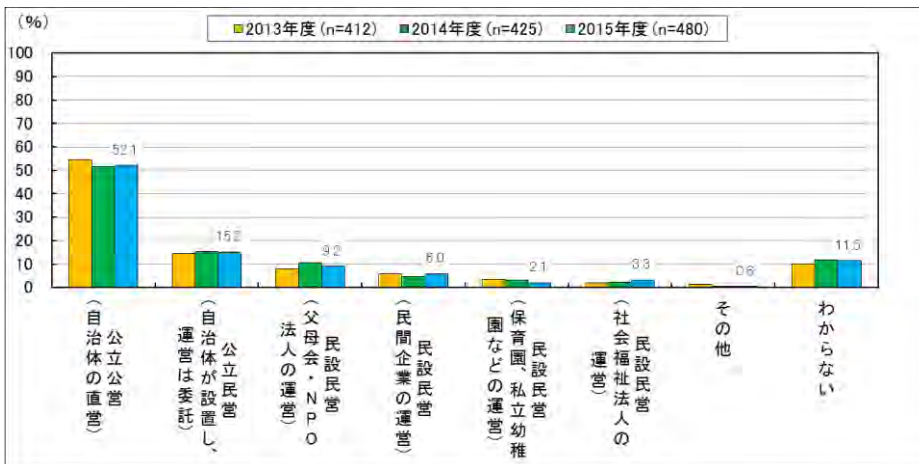
今後は、公設・民設の学童保育ともに、質・量の両面において、社会全体から一層の充実が求められていくと考えられます。今回の調査は、このような社会的背景を受け、利用者である母親の視点から、学童保育の利用実態や利用者としての評価・期待を明らかにし、今後、学童保育業界全体が利用者の目線に立って発展していくための一助することを目的に実施いたしました。

### <キッズコーチ協会について>

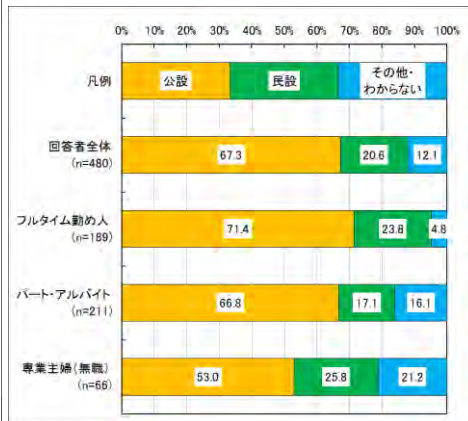
- 法人名：一般社団法人キッズコーチ協会
- 所在地：東京都世田谷区玉川 2-12-5 2F
- 設立：2012年
- 代表理事：島根 太郎 (株式会社キッズベースキャンプ 代表取締役)
- 目的：『認定キッズコーチ』や、『キッズコーチ検定』を通して、子育てがしやすい環境の整備や、保育人材の確保及び質の向上、学童保育業界全体の発展に寄与する
- 事業内容：保育資格制度『認定キッズコーチ』の運営  
子どもと関わるための基礎力の習得を目的とした検定『キッズコーチ検定』の運営

## 【学童保育の利用実態】

Q1.あなたが現在利用している学童保育の運営主体を教えてください。(回答は一つだけ)

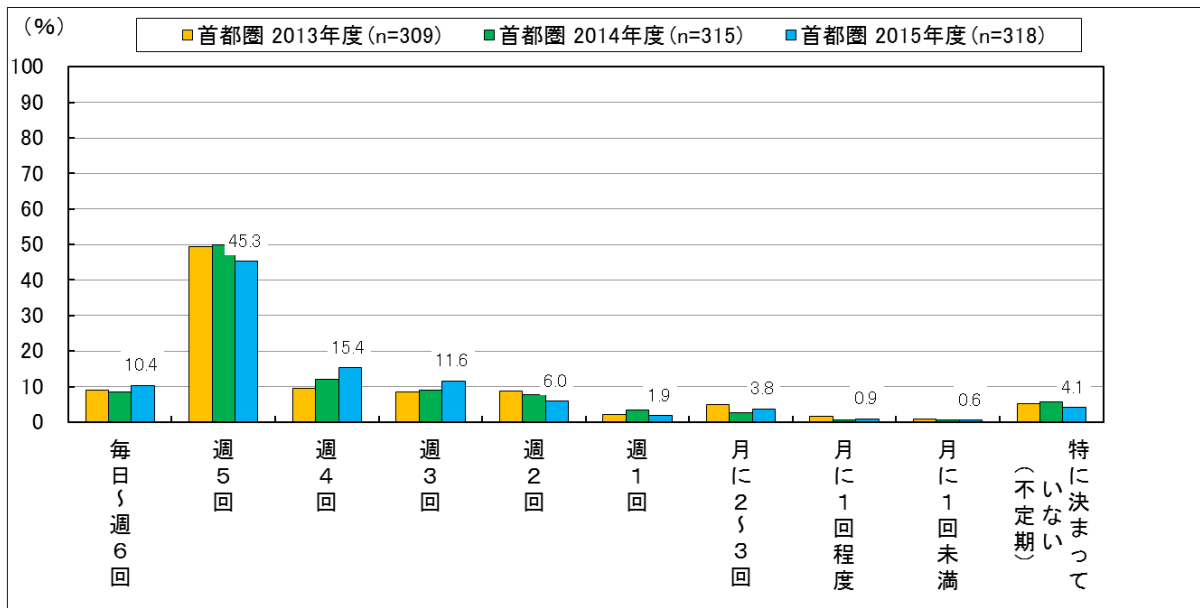


## 【母親の就労形態別】

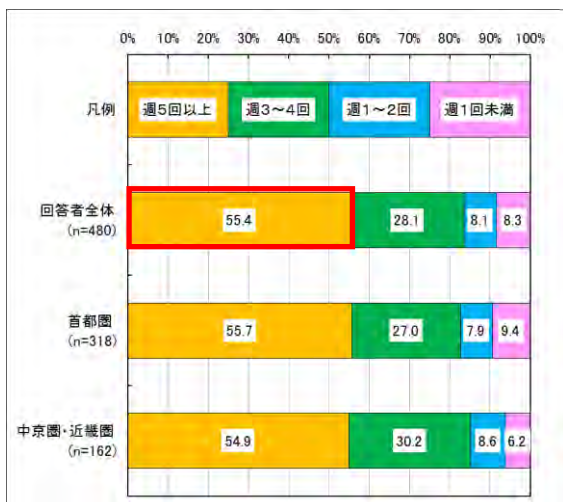


- ✓ 学童保育の運営主体をみると、回答者の 52.1%が「公立公営」と答えています。これに「公立民営」(15.2%)を加えた「公設」の学童保育を利用している人は、昨年度と同様、回答者の約 7 割に達します。
- ✓ 母親の就労形態別にみると、「民設」の学童保育は、フルタイム勤めの方が、パート・アルバイトよりも高い割合を示しています。

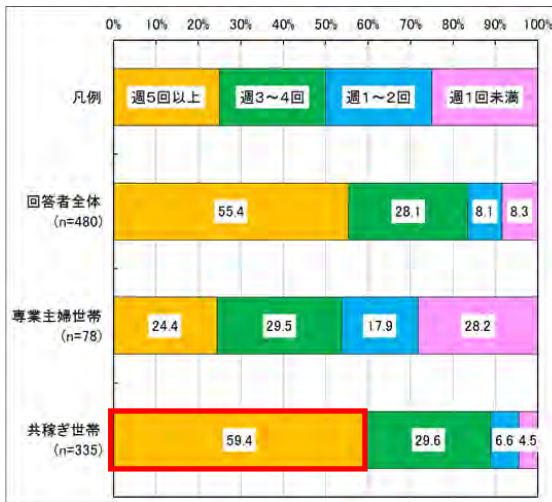
Q2.あなたのお子様は、学童保育をどれくらいの頻度で利用していますか。(回答は一つだけ)



## 【全体・地域別】

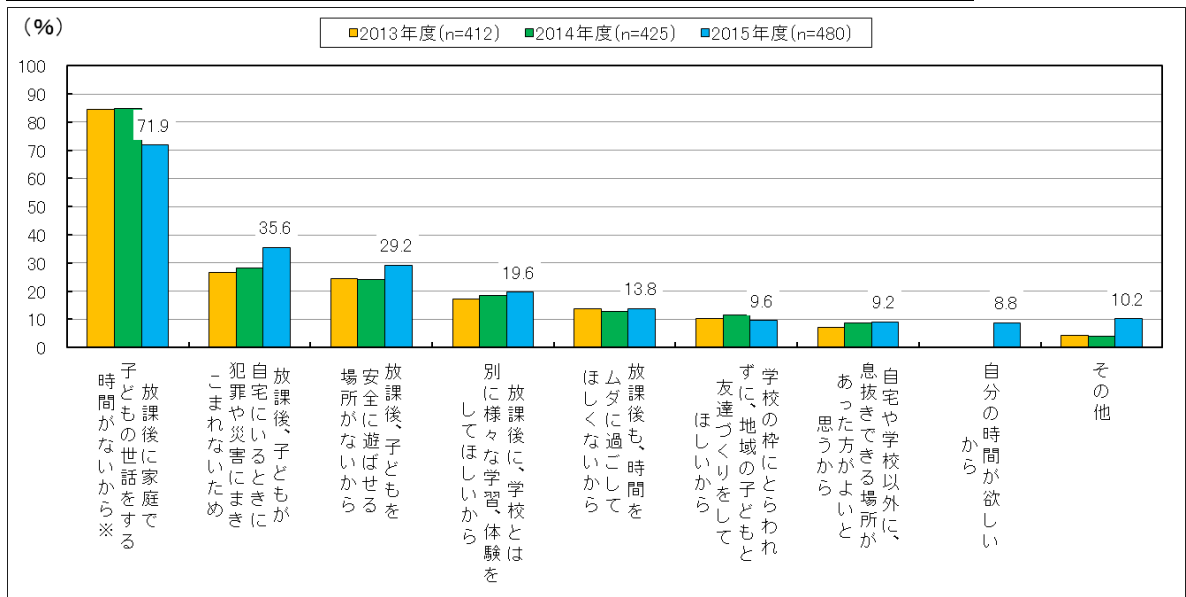


## 【家計形態別】

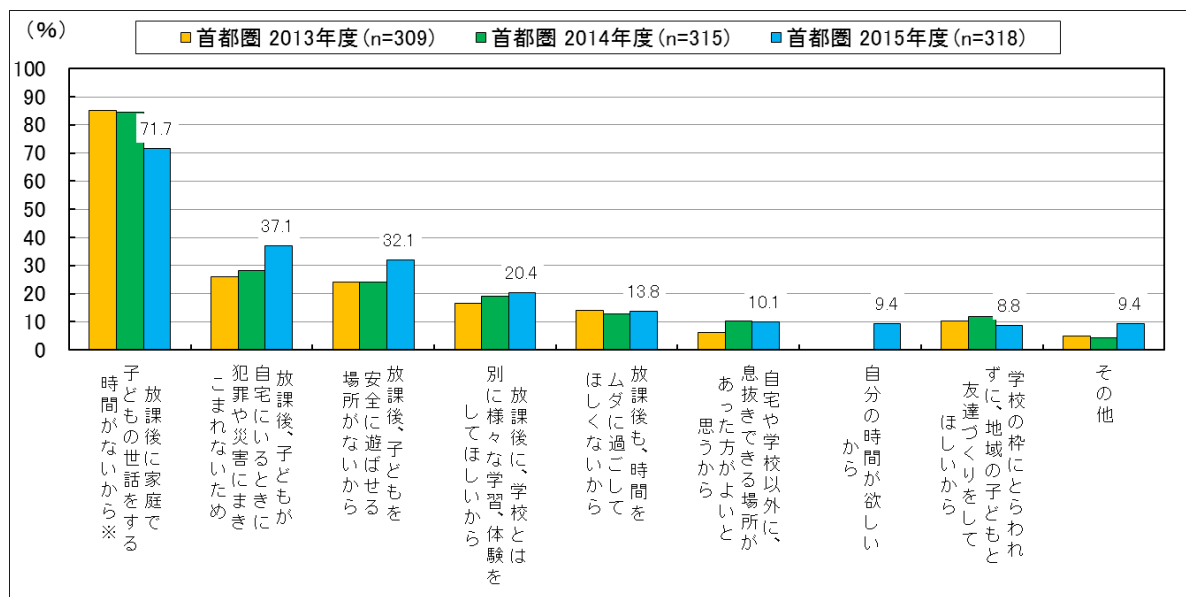


- ✓ 学童保育の利用頻度をみると、55.4%の人が学童保育を「週5回(日)」以上利用しています。
- ✓ 首都圏では、利用頻度が「週4回」の割合が2013年度と比べて高くなっています。(6.0%増)
- ✓ 家計形態別では、共稼ぎ世帯の59.4%が「週に5回(日)」以上学童保育を利用しており、専業主婦世帯よりも顕著に高くなっています。

**Q3.あなたは、どのような理由で学童保育を利用していますか。(回答はいくつでも)**



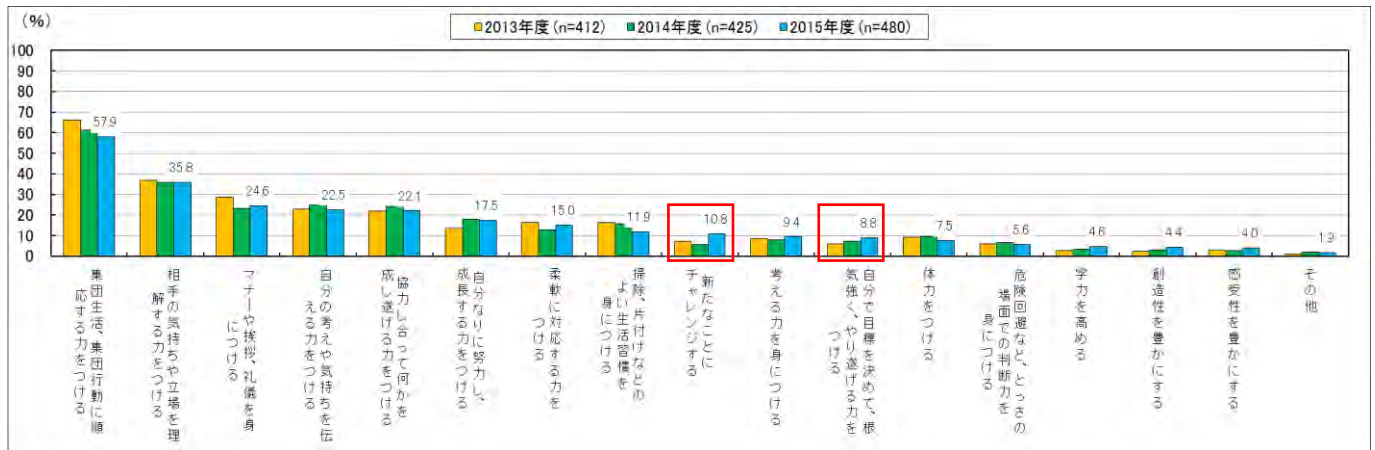
**【首都圏】**



- ✓ 学童保育を利用する理由では、71.9%の人が「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」を挙げています。次いで「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」(35.6%)が挙げられています。
- ✓ 2014年度と比べて、首都圏に住む人では「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」(7.4%増)、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」(5.0%増)を理由とする人の割合が高くなっています。
- ✓ 2014年度と比べて、首都圏に住む人は、最上位に挙げられている「放課後に子どもの世話をする時間がないから」を理由とする人の割合が低下しています。(12.8%減)

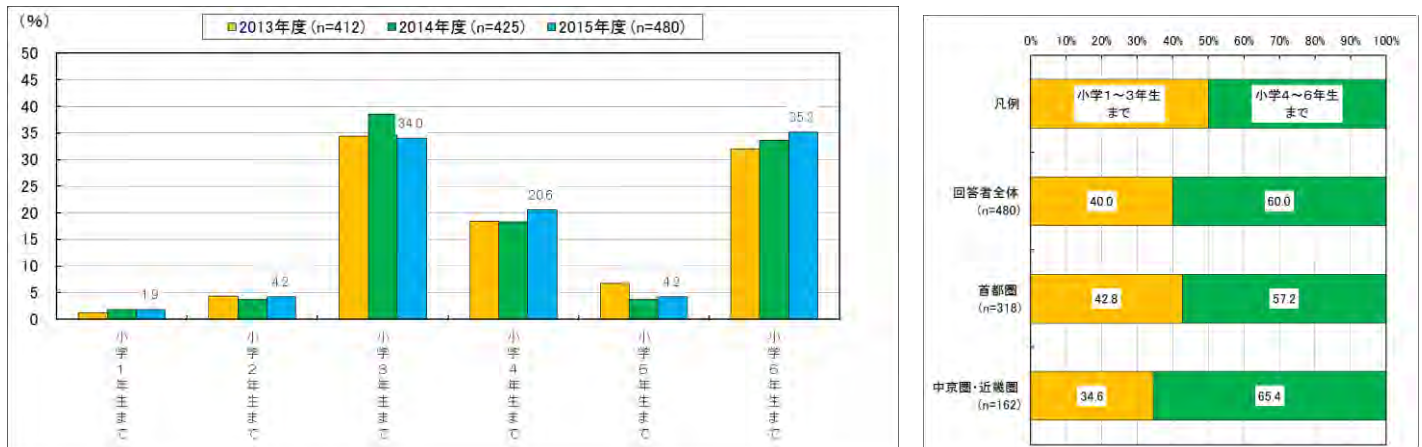
## 【学童保育に対する期待】

Q4.あなたが学童保育で過ごす時間を通じて、お子様に身につけて欲しい能力は何ですか。(回答は3つまで)



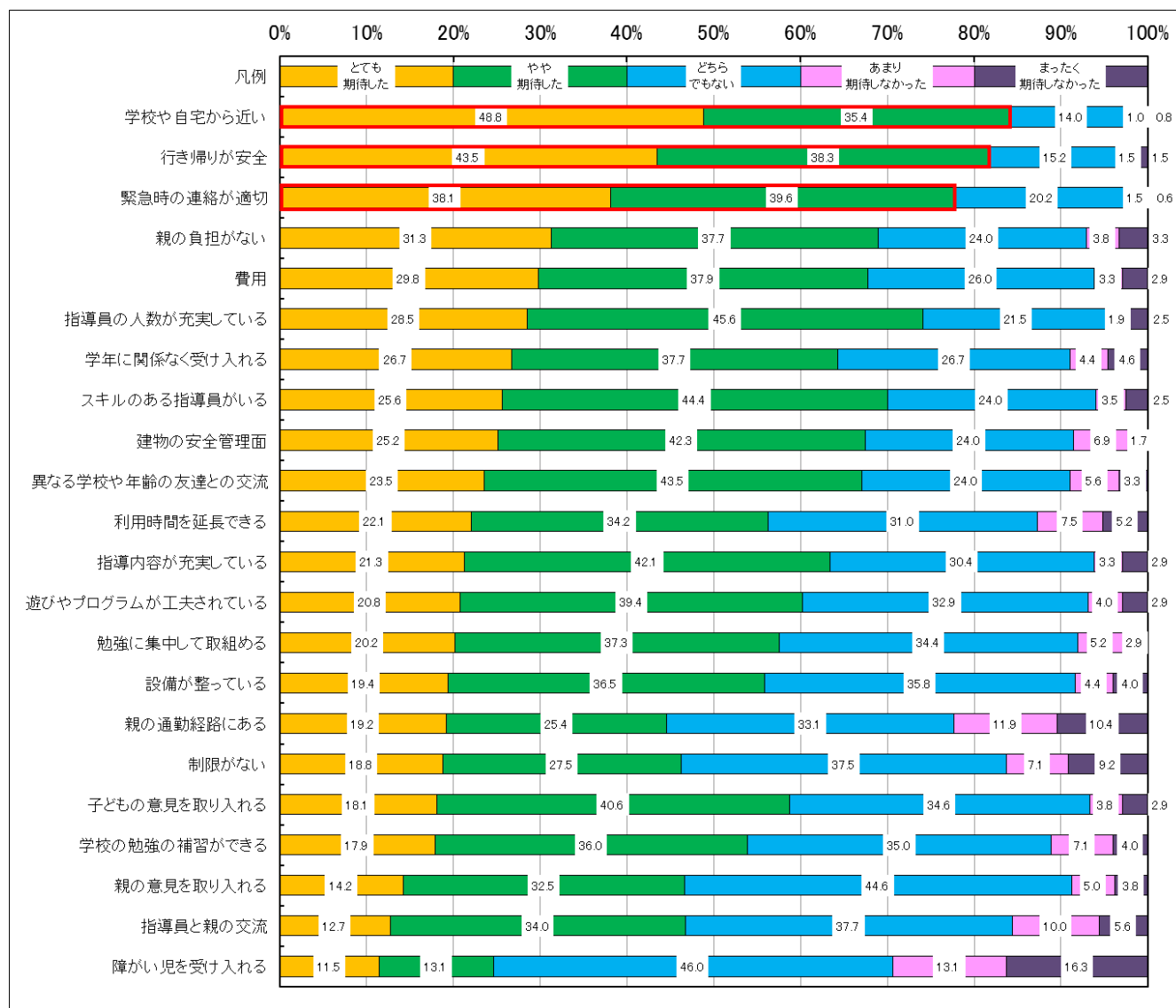
- ✓ 学童保育を通じて子どもに身につけさせたい能力をみると、回答者の 57.9%が「集団生活、集団行動に順応する力をつける」を挙げています。次いで、回答者の 35.8%が「相手の気持ちや立場を理解する力をつける」を、24.6%が「マナーや挨拶、礼儀を身につける」を挙げています。
- ✓ 2013 年度からの推移を見ると、「新たなことにチャレンジする」、「自分で目標を決めて、根気強く、やり遂げる力をつける」を挙げる人の割合が顕著に伸びています。

Q5.あなたは、お子様が何年生になるまで、学童保育を利用したいとお考えですか。(回答は一つだけ)



- ✓ 学童保育の利用期限(学齢)については、「小学3年生まで」(34.0%)と「小学6年生まで」(35.2%)の割合がほぼ拮抗しています。3年単位でまとめると、「小学校低学年まで」が40.0%、「小学校高学年まで」が60.0%で、高学年までの利用を望む人が多数派となります。
- ✓ 2013 年度からの経年での比較しましたが、それぞれの項目において顕著な差異はみられませんでした。

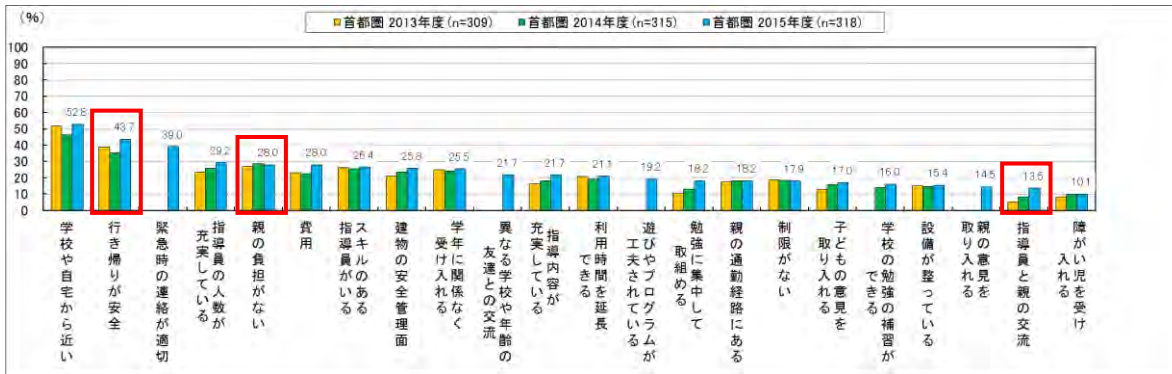
**Q6.あなたが学童保育を利用する前に、どのようなことを期待しましたか。(回答はそれぞれ一つずつ)**



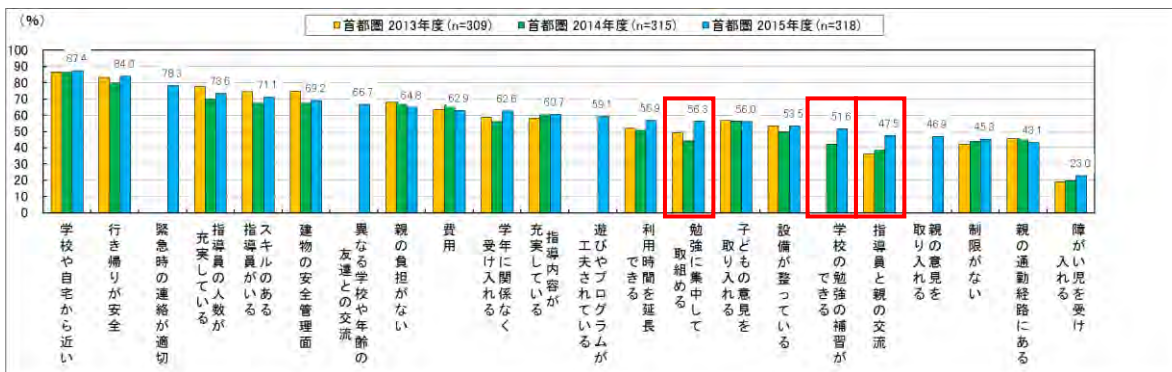
- ✓ 学童保育の利用に関する選択肢について、それぞれどの程度期待したかをたずねると、期待したこと(「とても期待した」と「やや期待した」の合計)では、「学校や自宅から近い」(84.2%)、次いで、「行き帰りが安全」(81.8%)、「緊急時の連絡が適切」(77.7%)が挙げられています。

## 【前年度比較】

### ◆「とても期待した」こと



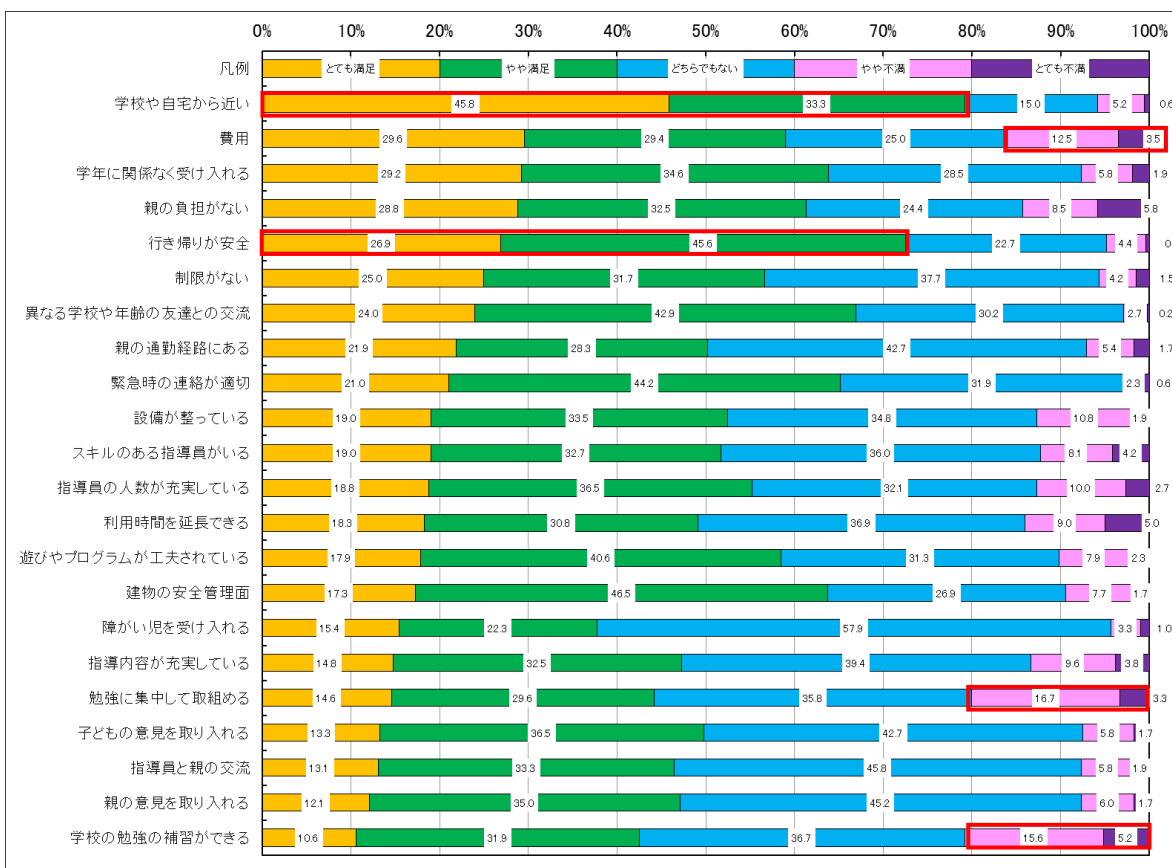
### ◆「とても期待した」+「やや期待した」こと



- ✓ 首都圏に住む人では、「行き帰りが安全」「費用」「勉強に集中して取り組める」「指導員と親の交流」について、「とても期待した」人の割合が高くなっています。
- ✓ 2014年度と比べると、「勉強に集中して取り組める」「学校の勉強の補習ができる」「指導員と親の交流」について、「期待した(計)」の割合が高くなっています。

## 【学童保育に対する評価】

### Q7. あなたからみて、現在利用している学童保育にどの程度満足していますか。(回答はそれぞれ一つずつ)



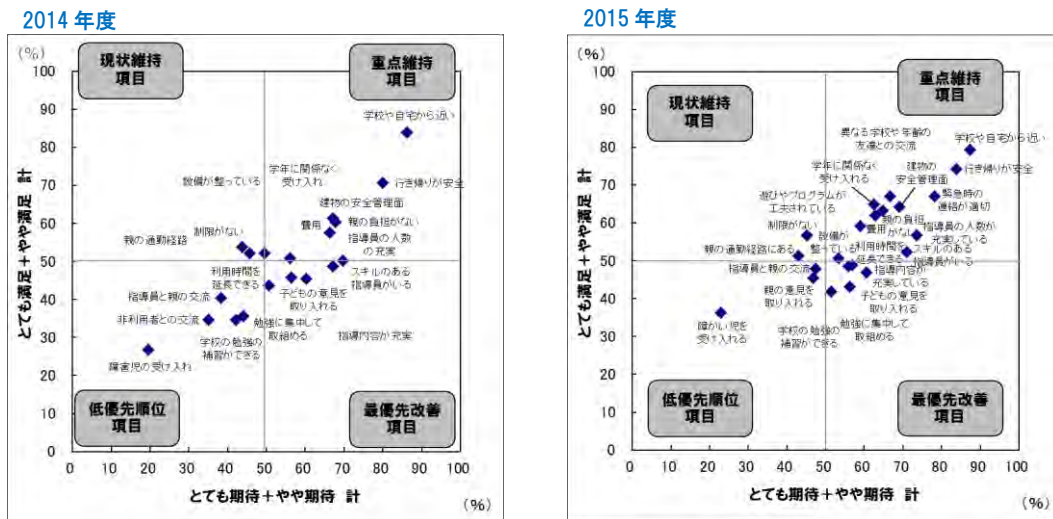
- ✓ 現在利用している学童保育について、満足度の高い項目(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、前問で期待度が高かった「学校や家から近い」(79.1%)、「行き帰りが安全」(72.5%)といった項目は、満足度も高くなっています。一方、「やや不満」、「とても不満」が多かったのは「学校の勉強の補習ができる」(20.8%)、「勉強に集中して取り組める」(20.0%)、「費用」(16.0%)でした。

## 【今後の学童保育に向けて】

### 学童保育に対する期待度と満足度からみる課題抽出

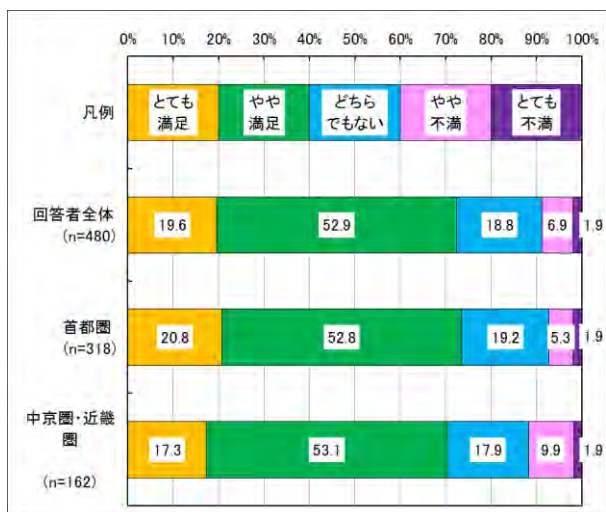
学童保育に対する期待度(『とても期待』『やや期待』の合計)と、満足度(『とても満足』『やや満足』の合計)の2つの指標を用いて、CSポートフォリオ(「期待度」と「満足度」の2つの視点にもとづく各項目の分布から、今後の対応課題を抽出する)を作成。

#### 【地域別比較(首都圏)】



- ✓ 首都圏では、「スキルのある指導員がいる」「利用時間を延長できる」「勉強に集中して取り組める」「子どもの意見を取り入れる」「学校の勉強の補習ができる」などが、『最優先改善項目』に位置しています。
- ✓ 2014年度と比較して、新たに『最優先改善項目』に位置したのが、「勉強に集中して取り組める」「学校の勉強の補習ができる」です。
- ✓ 2014年度と比べて、『最優先改善項目』から『重点維持項目』に移動したのが、「スキルのある指導員がいる」です。

### Q8. 現在通っている学童保育に対する、お子様の満足度はどれくらいだと思いますか？



- ✓ 現在通っている学童保育に対する満足度をみると、回答者の19.6%が「とても満足」と答えています。
- ✓ 回答者の72.5%が、「満足」(「とても満足」と「やや満足」の合計)と答えています。



**満足度と関連性の高い項目《相関分析》**

首都圏

相関係数	項目
0.562	スキルのある指導員がいる
0.537	指導員の人数が充実している
0.527	親の意見を取り入れる
0.527	指導内容が充実している
0.505	子どもの意見を取り入れる
0.410	遊びやプログラムが工夫されている
0.389	緊急時の連絡が適切
0.370	利用時間を延長できる
0.370	指導員と親の交流
0.370	勉強に集中して取組める
0.351	学校の勉強の補習ができる
0.342	設備が整っている
0.330	行き帰りが安全
0.306	建物の安全管理面
0.249	親の通勤経路にある
0.229	異なる学校や年齢の友達との交流
0.204	障がい児を受け入れる
0.183	費用
0.181	親の負担がない
0.172	制限がない
0.166	学年に関係なく受け入れる
0.161	学校や自宅から近い

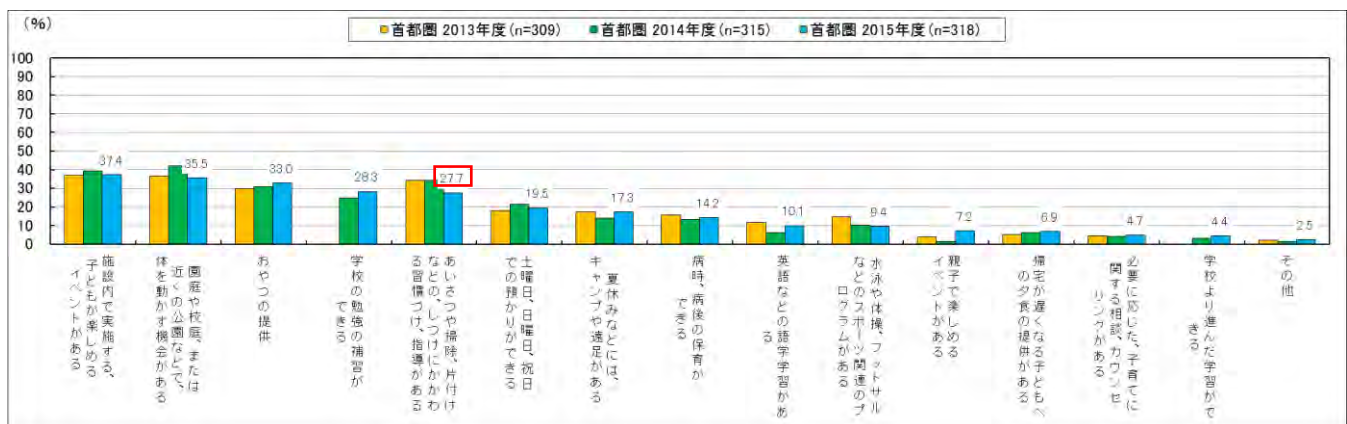
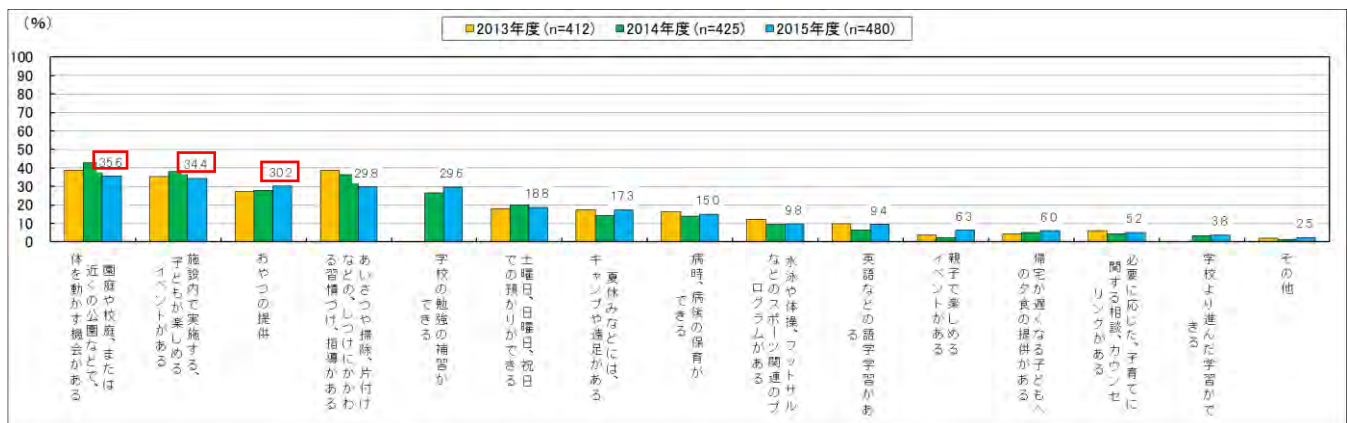
中京圏・近畿圏

相関係数	項目
0.671	スキルのある指導員がいる
0.671	指導内容が充実している
0.622	指導員の人数が充実している
0.596	学校の勉強の補習ができる
0.590	子どもの意見を取り入れる
0.530	遊びやプログラムが工夫されている
0.525	勉強に集中して取組める
0.513	緊急時の連絡が適切
0.474	建物の安全管理面
0.446	制限がない
0.439	親の意見を取り入れる
0.422	指導員と親の交流
0.421	設備が整っている
0.410	異なる学校や年齢の友達との交流
0.399	行き帰りが安全
0.396	親の負担がない
0.385	費用
0.317	利用時間を延長できる
0.301	親の通勤経路にある
0.297	学校や自宅から近い
0.293	障がい児を受け入れる
0.281	学年に関係なく受け入れる

- ✓ 首都圏・中京圏・近畿圏ともに、「お子様の満足度全般」と最も関連性が高いと思われるのは、「スキルのある指導員がいる」に対する満足度となっています。
- ✓ 首都圏では、次いで「指導員の人数の充実」「親の意見を取り入れる」「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」に対する満足度が続きます。

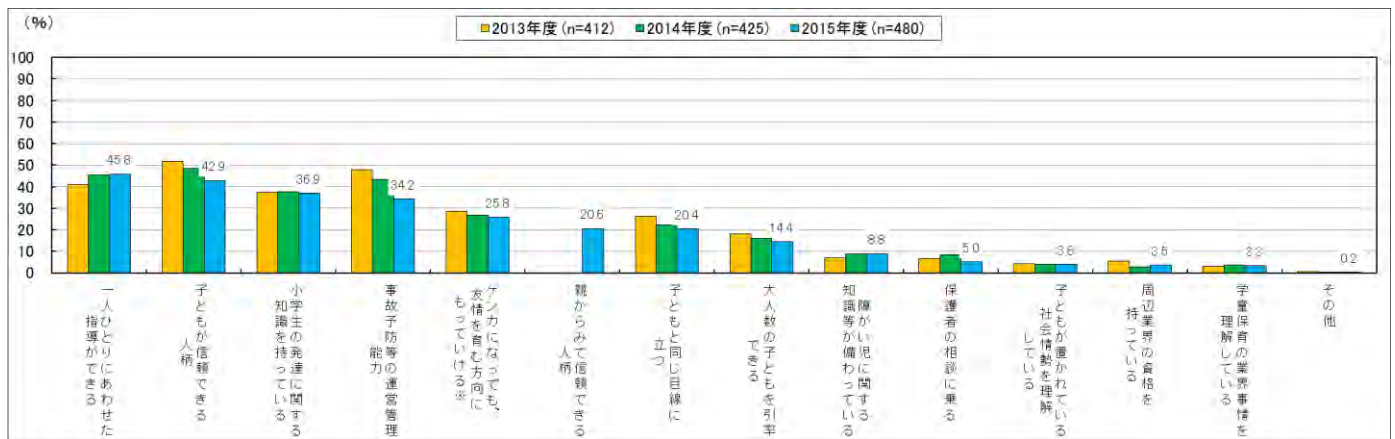
**Q8.学童保育には様々なサービス・プログラムがありますが、あなたが学童保育に期待する機能は何ですか。**

(回答は3つまで)

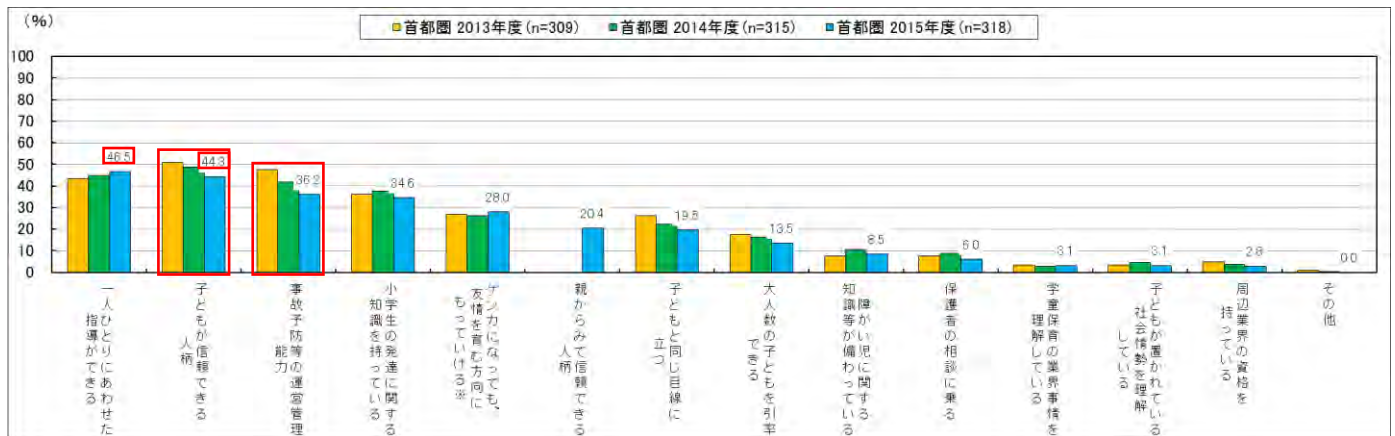


- ✓ 学童保育のサービス・プログラムにおいて、学童保育利用者が特に期待しているのは、「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」(35.6%)、「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがある」(34.4%)、「おやつを提供してくれること」(30.2%)でした。
- ✓ 2014年度と比べると、首都圏に住む人では、「あいさつや掃除、片付けなどの、しつけにかかわる習慣づけ、指導がある」に対する期待が低下しています。(6.6%減)

**Q9.あなたが、学童保育の指導員に対して期待することは何ですか。(回答は3つまで)**

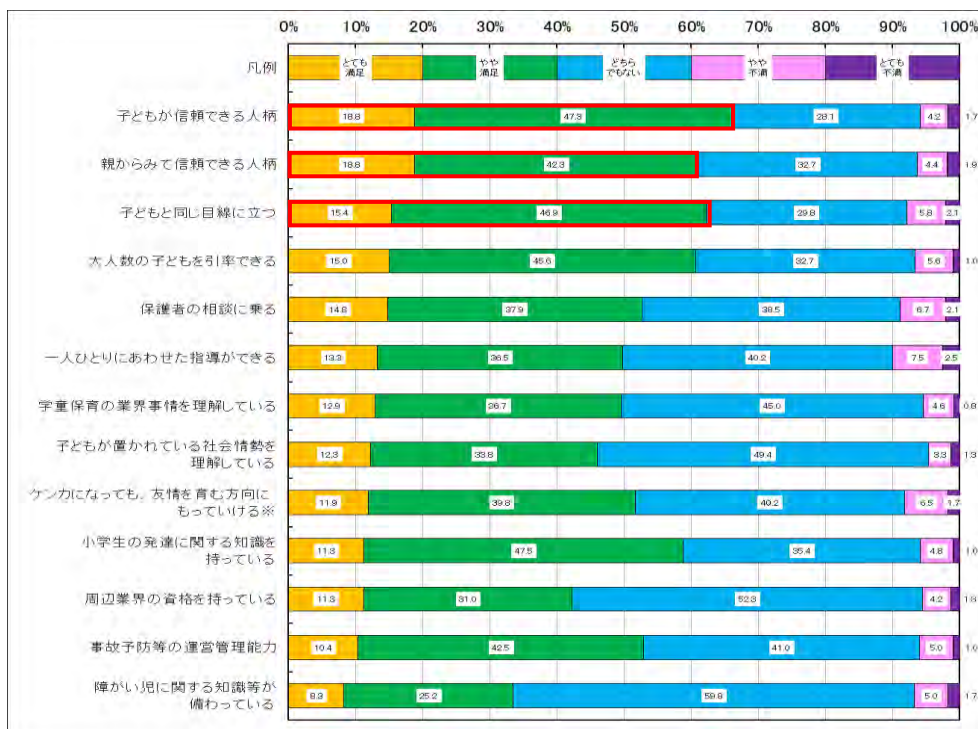


※2015年度に選択肢の文言を変更しています



- ✓ 学童保育の指導員に対する期待をみると、「一人ひとりにあわせた指導ができる」(46.5%)、「子どもが信頼できる人柄」(44.3%)、が挙げられています。
- ✓ 2014年度と比べると、首都圏に住む人では、「子どもが信頼できる人柄」「事故予防等の運営管理能力」に対する期待が低下しています。

**Q10.現在お子様が通っている学童保育の指導員について、どれくらい満足していますか。(回答はそれぞれ一つずつ)**



- ✓ 学童保育の指導員に対する満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、「子どもが信頼できる人柄」(66.1%)、「子どもと同じ目線に立つ」(62.3%)、「親からみて信頼できる人柄」(61.1%)の項目で満足度が高くなっています。